

2021年10月16日（土）、私たち家族5人とマレーシアからの留学生ヴィッキーは初めて対面しました。コロナ感染症の影響で4か月ほど遅れてしまいましたが、それからの5か月間は私たちにとって大変**刺激的で有意義な日々**となりました。



AFSのプログラムに応募した後から日本語を学び始めたというのが信じられないほど、ヴィッキーは初対面のときから日本語を上手に話すことができ勉強家ぶりを伺うことができました。

我が家にやってきた日の夜、1週間ほど前、ホテルでの隔離期間中に18歳の誕生日を迎えていたヴィッキーの誕生日会を催しました。私たちがヴィッキーを**家族の一員として**迎える気持ちが彼女に伝わってくれたかな。

ヴィッキーは南高ではテニス部と茶道部に入りました。特に茶道部に入ったことについては、もともと抹茶が大好きだったことありますが、日本の文化を学びたいということも理由だったのだらうと思います。茶道だけでなく、日本の文化や歴史などにたくさん触れてもらい、私たちにとってもあまり馴染みがないものについても出来るだけ教えてあげられるよう、私たち自身もあらためて勉強する良い機会になりました。

コロナ禍ということもあり近場が多かったものの、ヴィッキーをいろいろなところに連れて行きました。神奈川県内だけでも、小田原城、川崎大師、鎌倉の大仏・鶴岡八幡宮・報国寺・明月院、三浦の朝市。横浜も、ズーラシア・金沢八景のほか中華街・みなとみらい・関内などには何度も行きました。慣れてくると1人もしくは友達ともあちこち散策に出かけていました。こうして見ると、神奈川県には歴史のターニングポイントになったような「見どころ」がたくさんあることがわかりますね。勉強熱心で好奇心も旺盛なヴィッキーに、各所の歴史や関連する人物などを説明するのは大変でしたが楽しくもありました。



我が家には、ヴィッキーとともに南高に通う長女と、中1の次女、そして6歳の息子がいます。ヴィッキーも長女で妹と弟がいるせいか、とても面倒見がよく、とくに息子とはたくさん遊んでくれました。遊び相手として付き合いされていた感も否めませんが（笑）、ヴィッキーが日本語の話し言葉を学ぶには良い環境だったかもしれません。

それにしても、日本語は（教えるには）難しい言語だとつくづく思い知らされました。“すみません”は謝るときにも感謝するときにも、そして店員さんを呼ぶときにも使います。“大丈夫”。レストランの店員さんが「お水は大丈夫ですか？（おかわりは要りますか？）」と尋ねます。相手を心配するときや気遣うときにも「大丈夫ですか？」と尋ねます。

ヴィッキーは、短い滞在期間中にも驚くほど日本語が上達しました。

3月13日（日）、ヴィッキーが使っていた部屋は、また元の息子の部屋に戻せるよう、空っぽになってしまいました。でもヴィッキーは多くのものを私たちに置いていってくれました。そしてヴィッキーも、スーツケースと一緒に、小さな体から溢れ出してしまうほど多くのものを持って帰ってくれたことと思います。ちょっと心配だけど・・・
ヴィッキーならきっと**“大丈夫”** !!!